

## 平成24年度 第5回 静岡市スポーツ推進審議会会議録

- 1 日 時 平成25年3月7日（木）15時から17時まで
- 2 場 所 静岡市役所静岡庁舎 新館9階 特別会議室
- 3 出席者 【委員】（50音順・敬称略）  
赤田陽子、池川茂、大榎克己、佐藤栄作、鈴木栄、瀬戸脇正勝、  
増田香緒里、松井恒二、山本輝男  
【事務局】  
前澤利春スポーツ振興課長、田中正己参事兼統括主幹、  
加納弘敏参事兼ホームタウン推進室長、鈴木達也統括主幹、  
杉山範雄統括主幹、宇佐美栄副主幹、杉山雄亮主事
- 4 欠席者 伊藤恵美子、大儀見浩介、太田仁美、大長功、徳永容美子、吉田和人
- 5 傍聴者 なし
- 6 議 題 諮問事項「スポーツ基本法の理念に基づくスポーツ推進計画の策定」について
- 7 会議内容 下記のとおり

### 司会（鈴木統括主幹）

本日はお忙しい中お集まりいただき、誠にありがとうございます。ただ今から平成24年度第5回スポーツ推進審議会を開催いたします。

まず、お手元の資料の確認をさせていただきます。

### <資料の確認>

次に、毎回のことではございますが、議事に入る前に確認事項がございます。本審議会の会議録につきましては、静岡市のホームページにおいて公開させていただいております。この公開には、会長と委員1名の会議録確認の署名が必要となりますので、ご了承くださいませようよろしくお願いいたします。

それでは松井会長、議事進行についてよろしくお願いいたします。

### 議長（松井会長）

情報公開の件についてはよろしいでしょうか。今回は大榎委員にお願いしたいと思います。今日の会議録ができましたら、後日内容の確認と署名をよろしくお願いいたします。

それでは、本日の出席者の確認をします。事務局お願いします。

### 事務局（宇佐美副主幹）

本日は、委員15名中9名の出席です。定足数に達しておりますので、本日の審議会は成

立しております。本日欠席されています6名の委員からは、委任状をお受けしております。  
以上です。よろしく申し上げます。

**議長**

ありがとうございました。それでは諮問事項に関して審議に入りたいと思います。

前回の審議会において、事務局が作成した建議書の素案を皆さんに審議していただきましたが、前回の議論を踏まえた修正案を事務局でまとめていただきました。前回と同様、項目ごとに事務局に読んでいただいた後で、皆さんからご意見を伺っていくという方式でやらせていただきたいと思います。

それでは、早速資料1の内容に入っていきたいと思います。事務局お願いします。

**事務局(宇佐美副主幹)**

<提言文読み上げ>

**議長**

ありがとうございました。これについて何かご意見などありましたらお願いいたします。

私が気になった所は、真ん中の段落の「そのような中、昭和36年に制定された『スポーツ振興法』」という語順が「そのような中、スポーツ振興法（昭和36年）」というふうに入れた方が読みやすくなるのかなと感じました。

**池川委員**

会長が言われる方がスムーズだと思います。

**議長**

では、そのような内容でも構わないので、他にいかがでしょうか。

提言文だけだと後ろとの関連性もあり、ここでは意見がすぐ出そうもありませんので、次の1の所を事務局お願いします。

**事務局(宇佐美副主幹)**

<「1 子どもの体力向上とそれに係るスポーツ環境の整備について」読み上げ>

**議長**

ありがとうございました。2ページにわたる文章で、いろいろお気づきのことがあると思いますので、ご意見を出していただきたいと思います。

**赤田委員**

「現状」の最初の「子どもの体力向上については」というのを「平成13年から」の前に入れた方がわかりやすいと思います。

議長

今のご意見についてはいかがですか。

その文節で私が一つ気になるのは、2行目の「歯止めがかかるようになってきているが」というのが、何か違う言葉遣いにできないかなと思います。

瀬戸協委員

「かかるようになってきている」と書いてあるので、何かが功を奏してかかるようになってきているという感じがします。現状でいくと「かかっている」のほうが適当である。そこに違和感があると思います。

議長

「かかっているが」でもいい。

瀬戸協委員

「なっている」というのは、若干文脈として読み取りにくい。

佐藤委員

「体力向上」が低下傾向なんですか。

議長

そういえばそうですね。

佐藤委員

主語がなくなっている。「体力測定結果」とかいうふうに。

赤田委員

文科省がやっているのは小学校5、6年生なので、「結果」ですよ。

議長

毎年出されている結果が公表されるんですよ。

佐藤委員

それは何と言う？「体力テスト」ですか。

議長

「体力・運動能力調査」というものです。主語と述語の関係が違ってきます。これは直した方がいい。「向上」はなくて、体力についてはこうだったという文章にしないといけない。

瀬戸協委員

「体力向上」を使うとうまくいっていないみたいな感じがします。

議長

では、今の段落はそういう所を書き換えないといけないということでもよろしいですか。普通に読むと内容は入るんですけど、「現状」が6つの段落で構成されていますが、きちっとなっているかについていかがですか。文脈で変な所は全くない気がします。

赤田委員

すごくわかりやすいですね。

議長

では、1の「現状」はとりあえず通過したということでもよろしいでしょうか。「提言」の方で何かありましたらお願いします。

瀬戸協委員

「現状」では女子のことがすごく言われていますけど、「提言」には全くそこが触れられていない。女子に触れるのがいいかどうかわかりませんが。

議長

「現状」で書いてあることと「提言」の内容が整合している文章にならないといけない。

瀬戸協委員

- ・「中学校女子においては、スポーツをほとんどしない子どもが3割を超えている」
- ・「スポーツを全くしない女子の割合は、男子の2倍を超えている」
- ・「スポーツを行わない傾向が中学校段階で顕著となる女子を対象にして」

と、女子の割合が低いという記述が3回出てきている。女子について書き過ぎなのか、「提言」に女子のことを少し入れるのか、どちらかだと思います。

議長

そういうわかりやすいご意見です。どんどんざっくばらんに話してください。

瀬戸協委員

今のを入れるとしたら、「提言」の2番目に女子について触れられるかなと。

議長

女子がやらない原因がどこにあるかというのもあると思います。女子にとって男子とこれ

だけ差があるというのは、私からすると女子の受け皿が足りないと思います。スポーツをやりたい女子はいっぱいいるけど、女子のスポーツについては男子よりも限られているような気がします。

#### 鈴木委員

特に中学校はクラブ活動の種目も少ないですよ。ソフトテニスにばかり女子達が行って、やる子供は一生懸命やるし、やらない子も多いのもうちちょっと作ったらどうかと話したんですが、結局顧問の先生がいないという話です。

#### 議長

「現状」でも「環境の整備を図ることが必要である」ということはわかるんですけど、どのような内容を例にとるとか具体的な内容が入った方がいい。それを「提言」の中に入れる。

「子ども達にスポーツの楽しさを教える」という所も中身は分かるんですけど、それをすれば大きく変わりそうだという内容を「提言」に入れた方がいい。

#### 増田委員

この20.1%というのは、体育の授業以外ということですよ。現状としては、中学生女子の3分の1くらいが吹奏楽部に入ることが多いです。それで吹奏楽部がものすごく膨らんでいて、割と小さな学校でも大編成でコンクールに出ています。運動をしたくなくて運動部に入っていない子もいるだろうけれども、吹奏楽をやりたいと入っている子も現状としては多いので、男子と比べて運動に親しむ生徒が少ないというのはあると思います。

「どの教科が好き？」と聞くと、「体育が好き」という子は吹奏楽部の中にもいっぱいいて、体育の授業を楽しんでやれるので、ここの書き方がすごく難しいと思います。ですので、先ほど松井先生がおっしゃったように部活では吹奏楽をやっているけれども、外で軽スポーツでも楽しめるような場所があればいいなと思います。

#### 議長

女子について見ると、そういう分析はできますね。そうすると「提言」の3番目「単に技術面を指導するだけではなく」というものが入れば、この「提言」はそういう視点も十分反映しているということが伝わりますね。

#### 赤田委員

吹奏楽をやっている子達はハードですよ。時間もかなりとっていると思います。

#### 増田委員

見ていると休みの日は一日練習なので、肺活量はトレーニングできるかなと。

**議長**

吹奏楽のための体力トレーニングという組み合わせも面白いと思います。

本当だと「オールマイティ」という言葉もここで使うのがどうなのかと感じます。何か外来語ではない言葉を入れられないかという気はしました。確かにスポーツの能力だけじゃなくて、スポーツと文化という部分での「オールマイティ」が子どもにとっては理想形なんですよね。

**鈴木委員**

大榎さんにお聞きしたいんですが、サッカーをやっている小学生が時間を惜しんで一生懸命やっていますよね。他の種目がどうなっているということは考えられないでしょう。

**大榎委員**

私も小学生の時に地域のソフトボールの少年団の大会があって、それに出たかったんですけど、金属バットを買って学校に持って行ったら先生に取り上げられて、サッカーしかやらせてもらえませんでした。ただ自分としてはもっといろいろなものをやりたかった。なぜやらせてくれないんだろうというところは非常にありました。

**鈴木委員**

以前は市子連というのがあって、いろいろな競技の大会をやりました。そこでサッカー部の子ども達とソフトボール部の子ども達がソフトボールの試合をしたら、サッカー部が勝ったという話もあって、サッカーをする子どもの運動能力が非常に秀でていた。

**大榎委員**

メジャーリーグの選手の子どもの小さい時から野球をさせないとか、何にでも対応できるようなことをするという話も聞いたことがありますし、あまり偏って最初からその種目一筋というのもいいかもしれませんが、いろんな経験をするのは必要かもしれない。

**山本委員**

これを見ていると、7歳から19歳というのを子どもの括りにしています。そうすると、提言の2つ目と4つ目とでかなり隔たりがあって、小さい子どもは「特定のスポーツだけが上達するような偏った運動の仕方は～」と書いてあるけれど、4つ目では「海外では、プロスポーツ選手と子どもたちの交流～」と、18～19歳からそういう環境に置かれている子はかなりいるんじゃないかと思います。

**大榎委員**

私も子どもが7歳から19歳というのがすごく気になって、前回の会議録に「実際は7歳から19歳」と書いてあるので、年齢を見た時に「子ども」という括りが7歳から19歳という所に抵抗がありました。

**山本委員**

19歳というと大学生ですよ。

**議長**

そうすると2ページの「子どもの体力向上」というのは、子どもの中のどこを見ていっているかという、就学後の子どもから高校生までいなくて、「子どもの中でもとりわけ」とかいう文章になりますよね。

確かに大学生でも高校時代に鍛えられている子は基礎的な体力もかなりありますが、筋肉の量とか動きの中で見てもすごい差があります。

**赤田委員**

アンケート自体は7歳から19歳ということで、それは変えられませんので、「提言」の方に「この年代の子どもには」と対象をはっきりさせたらどうですか。

**議長**

そうですね。子どもでもとりわけ小学生、中学生ぐらいの年代ですよ。

**事務局(宇佐美副主幹)**

基本計画の6ページでは「子ども」というのは小学生から高校生としています。「現状」に書いてある子どもが7歳から19歳というのは平成21年度に行ったアンケートで、アンケートの中では「成人」と「未成年」という括りで調査しまして、未成年が7歳から19歳。一方で基本計画では小学生から高校生を対象にしているので、双方で言っている「子ども」というのが一致していません。アンケートの中では子どもというよりも「未成年」という表記にした方が。

**瀬戸協委員**

そうですね。「子ども」を「未成年」に変えて、最後の「子ども」を「就学前から高校生まで」という形で言うと、提言が生きてくるんじゃないかと思います。

**議長**

今までの2つで大きい議論になっているのは、子どもの定義に関わる問題と、大榎さんが言われたように、子どもの立場からするといろいろやりたいものを大人の判断で抑圧している部分がある。提言としてはそういう内容まで入れると斬新ですよ。我々が忘れてるのは、子どもから見たスポーツに大人が気を配ることを含めて、子どもが豊かなスポーツを享受できる環境を作るべきだという所だと思います。そういう内容が入っても斬新じゃないですかね。

**瀬戸協委員**

スポーツの楽しさを教えることの具体的な内容になっているんですね。

さっきの「オールマイティ」という言葉は、これを読むと「多様な運動能力を身に付ける」と読めますけど。

**議長**

「多様な運動能力」でいいんじゃないですか。

**瀬戸協委員**

「オールマイティ」だといろんなものが出てくるかもしれない。修飾すると、大榎さんが言ったようなことを「スポーツの楽しさ」という所に例を挙げる感じでもいいかもしれせん。

**議長**

「Players First（選手を第一に）」以前に「Human First（人間を第一に）」というものもあると思います。

下の3つはいかがですか。

**増田委員**

5つ目の「トップアスリートによる指導を受けたり」となると、他にも何かあるのかなと思って読むとそのまま「プロスポーツに親しむ」となってしまうので、「指導を受けるなど」とか「指導を受けたり見たり」ということだと思います。トップアスリートによる指導を受けることを主に持つていくのであれば、「受けるなど」の方がいいのかなと思います。

**議長**

例えば下のロンドンオリンピックに係る提言も混ぜて、一つの文節にする方法もあります。

**大榎委員**

その上の「単に技術面を指導するだけではなく、スポーツ心理学を教えたり、メンタルトレーニングを取り入れていくことが効果的である」という所ですが、「教えたり」と入っているのを他のことも入っていると思いますけど、この2つをやれば効果的というような感じにも取れてしまうので、生理学や運動医学等のいろいろな分野からアプローチしていく。だからこの言葉は入ってもいいですけど、多方面から取り入れることで興味を持ったり技術向上につながったりするというのも入れた方が。

**議長**

ここは変えた方がいいですね。「メンタル」というのも同じように出てきているし、例としてスポーツ心理学や生理学等のスポーツ科学、倫理学の部分とかも今の時代は非常に重要



になっています。

**瀬戸協委員**

最後の括りはどうなりますか。「人間的成長も見込むことができる」と書いてありますが、スポーツ科学をすることでどうなるか。別の面からスポーツを見るというのもすごくいいことだと思います。

**議長**

最初に「単に技術面を指導するだけではなく」という言葉が使われているので、書きにくくなっているのかもしれないね。

**瀬戸協委員**

スポーツは技術だけではないという捉え方を。

**議長**

「心技体」という言葉の中で、それらを一体として高められるようなスポーツ諸科学を前提とした内容を子ども時代に伝えていくことで、人間的な成長を見込むことは、すごくいいことだと思います。

**瀬戸協委員**

スポーツを科学するというのは、今の時代のことですよ。

**議長**

年齢が低い時代からのスポーツ諸科学というか、大榎さんなんか現場でそういうことをされているので、強く感じられていると思います。例えばバイオメカニクス的な内容とか、私達はそれを専門に学んできて、そういうことを伝えているわけなので。

**山本委員**

「スポーツ心理学やメンタルトレーニング等を取り入れていくことが効果的であり、これらによって練習の質が高まり、本番で実力が発揮される」というような文言でどうでしょう。

**議長**

でも、心理学に特化するのがどうかというご意見もあったので、例えばスポーツ心理学や生理学等が子どもと大人の両方に係わるような書き方。大榎さんから見ると、心理学や生理学はどういうものが書かれていますか。

**大榎委員**

いろんな分野を研究していくとか、科学的に分析するという部分で競技に興味を持ったり、

研究する道に行ったりするかもしれませんが、そういう分野から一つ一つスポーツにアプローチしていった興味を持つことが大事だと思います。それがスポーツの文化というか、サッカーで言うと医療関係とかマネジメントとか、いろんな人がいろんなことをサポートしてくれてJリーグのチームが運営できるわけですね。そういうものが文化となっていく。

私はエスパルスユースの選手をプロに養成しようと思っていません。でも、彼らがサッカーを経験したことによって、将来違う方向に行ってもサッカーに帰ってきてくれたりするなかでスポーツを愛してくれる、興味を持ってくれるようにいろんな見方を子ども達に持たせることができたらと思っています。

#### 議長

スポーツ科学というのも狭くて、例えばスポーツが複雑な内容で成り立っていることを子ども達が理解して、それぞれの道に使っていくようなスポーツとの関わり方をもつとよい。

#### 大榎委員

それが生涯スポーツにつながっていくようなことになればいいと思います。

#### 議長

そうすると、メンタルトレーニングじゃなくても「スポーツの楽しさを教えることが必要である」ということと、もう一つ段落を変えて「スポーツを通して様々なことを子ども達に教える」と。それはすごく大きなテーマで、そうすると「子どもの体力向上」という狭い範囲ではなくなってしまうんですね。でも、「提言」としてはそうしても構いませんし、さっき言ったような斬新な内容とか国で出されているものを超えている内容が静岡市で出されたとなると、それはすごくいいですね。

本当は今日の会議で私と事務局で整理する方向に行こうと思ってはいたんですけど、今のお話も含めて反映できる形にした方がいいように思います。ここが一番中心的な内容になると思いますので、タイトルも含めてうまく「提言」として幅を広げた形で書いてもいいと思います。

#### 佐藤委員

「メンタルトレーニング」という言葉は入れたい気がします。だからこの中で、例えば「メンタルトレーニングをすることで効果が上がる」とかいうふうにしたらどうですか。

#### 議長

ダイレクトに「スポーツ心理学」と言わないで、「スポーツ科学に関わる心理学」ではどうか。

#### 瀬戸脇委員

好きなことの楽しさを教えるのと、スポーツに親しむ効果があるということですね。

議長

科学とか文化という内容に触れる。すごく素晴らしい内容が出てきたと思います。  
最後の1行で「スポーツの楽しさを子どもに見せる」というのはどうか。

瀬戸協委員

これは4番目の部分の枕詞という感じがしますね。この2行だけが浮いている感じがします。

議長

見せただけではいけなくて、子どもが「選手はすごいことをやっているんだ」ということを味わせるとか、他の言葉も組み合わせて、そこからスポーツを楽しくしていくという内容が入ってくるといい。

瀬戸協委員

上の段かプロスポーツの所に入れてしまえばいいのでは。

議長

そういうふうに順番も少し整理するというのでいいですか。内容はかなり深いものが出てきましたので、この中で1ページに「提言」をまとめるのは苦勞すると思いますが。

増田委員

一番下の「見せる」は、「魅せる」という漢字を想像してしまいます。

議長

スポーツの魅力を子ども達に味わせるということですね。  
それでは次に、「2 総合型地域スポーツクラブについて」の読み上げをお願いします。

事務局(宇佐美副主幹)

<「2 総合型地域スポーツクラブについて」読み上げ>

議長

ありがとうございました。ここの「現状」と「提言」についてはいかがでしょうか。  
「提言」の所に書かれている「平成21年度に行った静岡市スポーツ活動に関するアンケートの結果からは」というのは、除いてもいいのでは。「現状」に書かれているので、繰り返しになってしまう。

瀬戸協委員

2番目が「総合型クラブの認知度を上げるため」となっているので、そこは同じ形でもいいのかなと。「今まで以上の周知」というと今までがどうか分かりませんが、文を変えない方が。何となく順番を整理した方がいいのかなという感じはします。最初の所では認知度を言って、運営のことが書いてあったり、どうあるべきかというのがありますけど、同じような内容はくっつけていった方がいいかなと思います。

議長

そうすると、提言の左のページの2つの文脈は一緒にしていいですよね。それから、相互連携とか事業内容という部分があつて。

瀬戸協委員

連携だけ強引ですよ。

議長

「提言」で第1に認知度を上げるということにして、2番目に初心者から上級者までのスポーツ実施率の向上に貢献できるという内容が入って、次に学校との連携や総合型クラブ同士の連携という内容でまとめて、総合型クラブの設立の部分とか指導者の問題とハード面の問題をまとめる。

相談員の話はどうしましょう。総合型クラブの中にスポーツに関する相談員等を「その他」という内容にしますか。総合型クラブに違う機能を持たせる為に。山本さんの所は相談員はいませんよね。

山本委員

私しかいないです。

議長

そうしたら総合型クラブが相互連携をして、クラブの中に様々なスポーツ相談員等を設置したり、機能を高めるような内容をそれぞれのクラブは持っていると思います。そういうことを共有して新たなものを作っていく所は必要だと思います。一緒に連携したらこのクラブはこういうことをやっていたというのが3回くらいあつたら、少しは親しみを持って連携できると思います。

山本委員

「総合型クラブを1から設立するのは非常に困難であるため、学校施設利用運営協議会を母体とし、総合型クラブに発展させていくことも検討していく」。これだけになってしまうと、他にこんなことがあるという。

議長

「困難」というのはネガティブな言い方ですね。

山本委員

「困難であるから学校施設利用運営協議会を発展させていくことも検討していく」。これだけでいいのかな。

瀬戸協委員

山本さんのクラブは1から立ち上げたのですか。

山本委員

そうです。

議長

中心になる人がいれば立ち上がると思います。

瀬戸協委員

ここで言いたいのは、もっといろんな組織を発展させていって総合型クラブにするということですよ。

山本委員

いろいろな形がありますよということだと思います。

議長

では「困難」というのは取って、立ち上げの形態について学校施設利用運営協議会を母体とするなど様々な方法で。

山本委員

「例えば」なんかが入るといい。そのほうが、学校施設利用運営協議会が運用しているような感じがする。

議長

「総合型クラブの設立については、学校施設利用運営協議会を母体とするなど新たな立ち上げ方、様々な立ち上げ方について検討をしていく」という内容であればいいんじゃないですかね。そうすると現状の「20クラブ設置」という所に、どんなことをしたらいいかという内容が示されている提言になります。

山本委員

20クラブが目標なのに、13クラブにとどまっている。

**議長**

前の議論でいくと、静岡市は広域なので、井川みたいな所は特別な場所なんです。住民が3km圏内とかのゾーンの中で立ち上げることは必要ですよみたいなことは入れてもいいかもしれませんね。そういうものができるように人材を発掘するし、そういうことも含めてどこかに芽を探して、地域住民が参加するのにアクセシビリティ（利用しやすさ）が確立されるような場所に作った方がいいと思います。

**山本委員**

私が個人的に考えていたのは、本当に総合型クラブが必要なのか。この目的はスポーツを皆さんに経験していただきたいということで、やりやすい環境を作る為にクラブを作りましょうということをやっていると思います。

前にも言いましたが、清水辺りはかなり総合型に近いクラブがあって、確かに認知度は10%くらいしかありませんが、総合型クラブ以外のところでスポーツはやっているという環境はあると思います。体協さんで体育館を使ってスポーツをさせたりして提携していますが、その目的の奥には多くの市民の皆さんにスポーツをやってもらいたいという目的があるから、総合型クラブが13しかなくてもスポーツを体験する人が増えればいいのではないかという考えがあるので、そうたくさん作る必要が果たしてあるのかなと考えます。確かに数によっては我々の仕事も非常に重くなりますが、それはそれでいいかなと思っています。

**議長**

総合型をより活用できるような内容と、総合型が新たにできればスポーツを初めてやる人はもっと取り組みやすいので、「他種目・多目的」という総合型の利点が緩やかにスポーツをやる人の受け皿としてもっと機能しなければいけないという提言はできると思います。スポーツをやりたい人が簡単に参加できるような場所の設定を意識して総合型クラブを設立することが望ましいという内容であればいいと思います。

**山本委員**

具体的に言うと、2～3日前に「夫婦で健康体操に行きたいけど、見学に行ってもいいですか」という電話をもらいました。ぜひどうぞということで、明日来ると思います。

そういう話もあるかと思うと、「バドミントンをクラブ単独でやっているのですが、会員を募集するために我々と一緒にやりませんか」と言う、「なぜ私達があなた達と一緒にやらなければならないの」という方もあるんです。ですから、総合型には入っていないけどスポーツをやっている方はかなりいると思います。認知度のパーセンテージとは違う感じはします。

**議長**

既存の同好会的なクラブは、内向きになってしまう傾向があるので、そういう所が誰でも体験できるようなことをやって欲しいんです。総合型を作るということは、そういうことを意図しているという内容が入ればいい。そういう内容をうまく整理して書き直すということで、次に広域スポーツセンターについて、事務局お願いします。

**事務局(宇佐美副主幹)**

<「3 広域スポーツセンターについて」読み上げ>

**議長**

ありがとうございました。では、ご意見を伺いたいと思います。

先ほど瀬戸協委員から「現状」と「提言」とのマッチングの話がありましたが、そうすると「総合型クラブの期待に十分応えているとは言い難い」という所があって、リーダーバンクはそういうことをバックアップすることになっていますが、文章的に「こういう形で応えるべきである」ということを入れた方がいいと思います。

**山本委員**

「その運用により十二分に効果が期待できるものと考えられるため、その運用に向けて」というのは、どうなんですかね。

**議長**

「検討しており、そのこと自体が総合型クラブの期待に応えることになる」という文章にすればいいと思います。

前述の総合型が施設とかで苦勞しているという内容も広域スポーツセンターで調整していただければ、「あおいカード」関係の登録制度のような問題も広域スポーツセンターが市民が優先的にできるように揃えてもらって、総合型が色んなアイデアを出して使うことがいいと思います。私達も場所を確保するのに苦勞しています。「提言」は役所にとっては大変なものになると思いますが、いろいろな意見が出されればいいものが生まれてくると思います。

**瀬戸協委員**

「提言」の3つ目の「緩やかにスポーツをやりたいという人に対しても、専門の知識を持った指導者を付ける必要がある」というのが説得性がない。なぜ指導者を付けるのか。その理由を少し入れた方がよい。

**議長**

理由の一つはみんな平等に受ける権利と、スポーツがただ楽しむレクリエーションではなくて、具体的な科学的根拠を学ぶ機会があると、スポーツはより楽しくなってくる。

瀬戸協委員

「発展的で楽しくなる」という感じで、もうちょっと向上心があるというか、ただ単に楽しいだけではなくて。

議長

「緩やかにスポーツをやりながら、より高いレベルを目指すきっかけにもなる」という文章にすればいいかもしれない。そういうことを学びたい人にとってはいい場ですよ。そういう内容も少し書き足した方がいいと思います。

最後の赤文字の5行ですが、「暴力」という言葉に強いインパクトがあるので、「暴力」という言葉は控えて「社会問題となっているスポーツ指導に暴力を行使した事案」の1回ぐらいにする。また、「スポーツ指導者の養成・研修」という言葉がきついというか上から目線なんですよ。『豊かな学びの場をスポーツ指導者に提供する』という言葉遣いに変えていく必要がある。

瀬戸協委員

「改善する」というのは今の状況が悪いと言ってしまっていることになるので、もっと前向きな言い回しの方がよい。

議長

「より豊かに学びの場を作っていく」というような書き方に。内容は一緒ですけど、イメージ的に現状が足りないとかいう所は緩やかな言葉にした方がいい。

瀬戸協委員

何かあるとそれに対してやりなさいということではなくて、もうちょっと高いものにする。

議長

指導者が積極的に学んでいけるような場を提供する機能を持たなければいけないという言葉遣いにしていった方が。

佐藤委員

やんわり言った方が。「スポーツ指導者に対し暴力根絶の指導を徹底する」というのは、すでに暴力が行われている感じですよ。

議長

それはほんの一部で、なかなか難しい問題だとは思いますが。

佐藤委員



広域スポーツセンターとしてそういう啓蒙活動を行うべきであると。

**議長**

啓発的な内容をより進めていく。それで学びの場を広げていくと。

例えば、規範を守らない子ども達がいる、「スポーツをやればいいよ」と言われてスポーツをすることによって更生していくという内容の過程で出ている暴力もあるんですね。私は決して暴力を肯定していないけど、そういう流れの中で出てくる暴力と、指導者に従わせるような暴力が言葉として一体になっていると思います。「暴力」という言葉は使わないようにしますか。

**山本委員**

そうですね。あまり使うのはよくない。

**議長**

現代のスポーツで様々な課題を学ぶ場という所になると思います。広域がそういう機能を持っていたらすごくいいと思います。我々も含めていろんな人の講習会等を聞きたい人はいるじゃないですか。でも、話によってはボランティアでいいという人もいらっしゃいます。

**山本委員**

県の広域スポーツセンターと、市の広域スポーツセンターはどう違うんですか。

**議長**

数年の流れから言うと、県の広域スポーツセンターが最も中心的にやっているのは、総合型地域スポーツクラブが作られていない市町に県の体協と関係者が積極的に働きかけている。それが一番大きな仕事です。あとは全県の総合型地域スポーツクラブの運営協議会をまとめる。一番大きなまとめ役になっているのが掛川市のクラブで、全国でも飛び抜けていい事例になっています。

それに対して、市の広域スポーツセンターは県に対して作るべきだというのはあると思います。県で頭に入れている広域は全県に一つ作って、静岡市で考えている広域をイメージすると、スポーツ振興課の中に一つだけはいけないという考えもあるし、県からは「静岡市はそのままがいい」という考えも出てきていると思います。静岡市の場合はスポーツ環境などをまとめることで機能する。

**山本委員**

名前は同じだけど、中身は全然違うということですね。

**議長**

静岡市が「広域スポーツセンター」という名称にするかという問題になりますが、「スポ

ーツ推進サポートセンター」とかいう言葉が出てきたので、名称を変えるという提言でもいいと。この中に名称についてもわかるような内容にしてもいいんじゃないかと思います。いかがでしょうか。

#### 池川委員

会長が言われた「サポートセンター」は非常にわかりやすいというか、それこそ計画に載っているいろいろな機能が集約されたものを担うということであれば、その方が分かりやすいという感じはします。

#### 佐藤委員

総合型地域スポーツクラブとの関係はどうなりますか。

#### 議長

もともと最初の発想が、数年前に国から振興基本計画が出された時に、総合型が円滑にいくような機能を作るということで広域が出ました。だけど、その役割はいつしか陳腐化していった、違う機能に持っていくのは時代の流れでいいことだと思います。

役所の場合は財源の確保に限界があると思います。例えば施設でも条例の問題があって、うまくやれば使いやすくなると思います。これは私達が考えなければいけない問題で、いい施設があるのにルールにのっとってやると臨機応変に運用する所まで行かないんですよ。指定管理者制度もそういう枠組みの中でやっているのだから、ルールを守ることになると思います。

昨日私のサッカー部が蛇塚を利用した時に、まちづくり公社にお願いしたら使える時間帯を調べてくれて、多少の時間の前後は緩やかにしてくれて、うまく運用する形です。昨日は3時から5時まで開いていたんです。私達も試合を組みたかったけど、ルールを違えてまでお願いできないし、それをやったら役所もまちづくり公社も困ってしまうので、そういう意味ではもったいないですよ。そういう市民の要望も受け皿として聞いてもらえて、それを実際の条例に活かしていく機能もあっていいと思います。最も関わり深い人達が知恵を出しながら既存の施設を有効に使うシステムに変えろとか、広域はもっと創造的な内容になっていった方がいいと思います。そういう意見を役所にも聞いていただいて、議員の方々も共有した方がいいと思います。

#### 山本委員

先ほどの名称の所で「サポートセンター」という名前はすごくいいと思いますが、決定はここ（スポーツ推進審議会）でするのですか。決定権はなくても、「提言」はできますよね。

#### 議長

いいものであれば「提言」以上のものが生まれてくると思います。

#### 瀬戸協委員

「総合型クラブの期待に十分応えているとは言い難い状況にある」という所から名前の提言とか調査研究とか、全部入れるのは大変だと思いますが、可能性があるんじゃないかという提言はできるのでは。

#### 議長

ちょうど時間になりましたので、皆さん熱心に議論していただいたので、今日出された意見を確認しながら文章をもう少し整理して、特に「現状」と「提言」の整合性を含めて最終確認をして、建議書を完成させるという流れでよろしいですか。

今日の審議は相当熱心にしていただいております。これで本日の審議は終わらせていただきます。事務局お願いします。

#### 事務局(宇佐美副主幹)

松井会長からも話がありましたが、ご審議いただきました建議書については今回の議論を踏まえたうえで会長と最終調整をさせていただいて仕上げます。本来でしたら皆様お揃いのところで教育委員会に提出したいところですが、年度末ということで皆様お忙しいと思いますので、会長に代表して教育長へ渡していただきます。

今日は盛りだくさんな内容が出ましたので修正点も多いと思いますが、会長と相談しながら進めさせていただきます。

皆様の任期ですが、今年の8月17日までとなっております。4月になると異動等もありますので、集まる機会としては今回を最後にしたいと思っています。

今日も話に出ましたアンケート調査を21年度にやっていますが、新しい計画を作るに当たりまして、25年度予算の中でアンケートの実施を予定しております。アンケートに当たりまして内容も審議会で相談しなければいけないと考えています。日程等もありまして、前回は住民基本台帳からピックアップして郵送しましたが、子どもについては学校を通した方が回収率も高いと思います。そういうことも考えると、夏休み前にやるのかななどを検討しながら、アンケートについては改めて相談する形になると思いますので、ご承知をいただきたいと思います。

8月以降の審議会の委員について、市の規定で3期を超えて委員に就任することはできないので、現在3期目の方は新たなメンバーにバトンタッチすることになります。後任については相談させていただきますので、よろしく申し上げます。今度は市民公募の委員も入ってきますので、その辺もご承知いただきたいと思います。

#### 司会

会長、ありがとうございました。また、長時間にわたりご審議をいただき、ありがとうございました。

本日の会議録でございますが、会長並びに大榎委員に内容等をご確認いただき、ご署名を

いただいた上で、静岡市ホームページに公開させていただきたいと思います。改めてご了承くださいませよう、よろしくお願いいたします。

それでは最後に、スポーツ振興課長の前澤よりご挨拶申し上げます。

**前澤課長**

<挨拶>

**司会**

以上をもちまして、平成24年度第5回静岡市スポーツ推進審議会を終了いたします。ありがとうございました。